

• 学人论丛 •



■ 黄春玉 著

关于结果补语句 的中日比较研究



上海译文出版社

• 学人论丛 •

关于结果补语句的中日比较研究

結果補語表現に関する中日対照研究

黄春玉 著



上海译文出版社

图书在版编目(CIP)数据

关于结果补语句的中日比较研究 / 黄春玉著. —上海: 上海译文出版社, 2011. 9

ISBN 978-7-5327-5387-1

I. ①关… II. ①黄… III. ①汉语—补语—句法—对比研究—日语 IV. ①H146.3②H364.3

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2011)第 027419 号

本书所有出版版权归本社独家所有,
非经本社同意不得连载、摘编或复制

关于结果补语句的中日比较研究

黄春玉 著

上海世纪出版股份有限公司

译文出版社出版、发行

网址: www.yiwen.com.cn

200001 上海福建中路 193 号 www.ewen.cc

全国新华书店经销

上海万卷印刷有限公司印刷

开本 890×1240 1/32 印张 8.25 插页 2 字数 188,000

2011 年 9 月第 1 版 2011 年 9 月第 1 次印刷

印数: 0,001—1,000 册

ISBN 978-7-5327-5387-1/H·979

定价: 28.00 元

如有质量问题,请与承印厂质量科联系。T:021-56013811

序文

黄春玉君は北京師範大学時代の旧友が私を紹介して名古屋大学の研究生として私のところにやってきた。

初対面の黄春玉君は顔に陰があり、全身に日本人に対する不信がみなぎっているのが見てとれた。

横浜での二年間は研究面でも生活面でも手をさしのべてくれる人がいないばかりか、いじめにも近い仕打ちを受けていたことを後になって知った。

私は数多くの中国人留学生を大学院の指導生として受け持ってきたが、黄春玉君は学問をするその目的のためだけに日本に留学してきた数少ない留学生の一人であった。

食べるものも着るものも人の目を気にすることなく徹底して儉約し、アルバイトは生きていくために必要な最低限の収入におさえ、孤高の留学生生活を送っていた。

黄春玉君の博士学位論文は、現代中国語の結果補語表現を分析の対象とし、その自動性・他動性及び動態・静態の二つの意味特徴を中心に、これらの概念が結果補語を用いた各種構文においてどのように作用し、それが統語面にどのように反映されているかについて論究している。また、日本語との対照を通じて、アスペクト、受動表現、結果状語との比較及び主観性など、さまざまな角度から考察し、各文類型における結果補語表現の特徴を抽出している。

日本語や中国語のタームの定義にふれの見られるところがあったり、自動性や他動性の概念についてなお綿密で掘り下げた分析が求められるなど、今後に残された課題は散見されるものの、豊富な実

序文
Preface序文
Preface

証的データと緻密な記述に支えられた説得力に富む意欲的な論文である。

黄春玉君は組織の一員としては納まりにくく、一人でコツコツと仕事をする職人に向いた性格の持ち主である。一般に職人が作品を仕上げるには地道でねばり強い探究心と頑固と思われるほどのこだわりが求められる。しかし、頑固とこだわりは紙一重であり、厳しい社会的評価に堪え得る作品を作り出す職人は常に自分とその仕事を客観的に冷静に見つめている。

同時に、他人の作品に対してはその作品そのものだけでなく、その作品を導いたプロセスを丹念に追いそこから新しい知見のヒントを得ている。

私は黄春玉君のような人と出会いを持ったことを嬉しく思っている。だからこそ、今後社会的に評価を受ける職人的研究者として大きく羽ばたいてくれることを期待している。

黄春玉君が日本を去る前の最後のゼミ施行で、満面の笑顔ではあったが、やや目元を潤ませて私に酒をすすめ、他のゼミ生ともいつになく朗らかに談笑し、誰も求めていない胡弓を一人満足そうに奏でていたのが忘れられない。

名古屋大学名誉教授 平井勝利

2010年12月

目次
Contents

第1章	序論	/ 1
1.	研究の目的	/ 3
2.	結果補語の定義と分類	/ 7
2.1	結果補語の定義	/ 7
2.2	結果補語の分類	/ 9
2.2.1	述語と結果補語の関係について	/ 10
2.2.2	結果補語の分類	/ 13
3.	本研究の構成	/ 17
	注	/ 18
第2章	結果補語表現の自動性と他動性	/ 21
1.	はじめに	/ 23
2.	先行研究とその問題点	/ 24
3.	動詞の自・他と結果補語表現	/ 27
3.1	他動性とプロトタイプ	/ 27
3.2	中国語の動詞の自・他	/ 30
3.3	動詞の自・他と動補構造の自・他	/ 33
3.3.1	結果補語が他動詞と共起する場合	/ 34
3.3.2	結果補語が自動詞と共起する場合	/ 39

目次
Contents

4. 主語の意味役割と動補構造の自動性・他動性	/ 42
5. 日本語との対応性	/ 49
5.1 中国語の動補表現に対応する日本語の結果 表現について	/ 49
5.2 述語が他動詞である場合	/ 51
5.2.1 動補表現と複合動詞の対応性	/ 51
5.2.2 動補表現と「結果の副詞＋動詞」表現の対応性	/ 53
5.3 述語が自動詞である場合	/ 56
5.3.1 中国語の動補表現と日本語の複合動詞の対 応性	/ 56
5.3.2 動補表現と「結果の副詞＋動詞」表現の対応性	/ 58
6. おわりに	/ 60
注	/ 61
第3章 アスペクトから見た結果補語表現	/ 65
1. はじめに	/ 67
2. 結果の二類型	/ 70
2.1 結果状態	/ 70
2.2 結果達成	/ 73
2.3 結果達成と結果状態の相違	/ 74

目次
Contents

2.3.1	時間軸上における相違	/ 74
2.3.2	動態・静態と結果達成・結果状態の関係	/ 77
3.	時間成分、助詞及び文類型から見た	
	結果達成と結果状態	/ 79
3.1	時間成分から見た結果達成と結果状態	/ 80
3.1.1	時間成分の二類型	/ 80
3.1.2	稼働期間成分	/ 80
3.1.3	単純期間成分	/ 87
3.2	“了 ₁ ”と結果達成・結果状態	/ 89
3.3	文類型と結果達成・結果状態	/ 96
3.3.1	動作主主語文と有責者主語文	/ 96
3.3.2	変化主語文と原因主語文	/ 99
3.3.3	場所主語文と受動者主語文	/ 100
3.3.4	この節のまとめ	/ 102
4.	おわりに	/ 103
	注	/ 104

第4章	受動文から見た結果補語表現	/ 109
1.	はじめに	/ 111
2.	先行研究と分析の視点	/ 112

目次
Contents

3. 受動文に見られる仕手の原因・手段化について	/ 115
3.1 日本語の場合	/ 116
3.2 中国語の場合	/ 118
3.3 仕手の原因・手段化から見た日中結果表現の 相違	/ 119
4. 能動・受動、自動性・他動性及び原因・手段化の 関係	/ 124
4.1 日本語の場合	/ 124
4.2 中国語の場合	/ 127
5. 原因・手段と結果状態	/ 132
5.1 日本語の場合	/ 132
5.2 中国語の場合	/ 136
6. おわりに	/ 138
注	/ 139
第5章 動詞句との共起から見た結果状語と結果補語	/ 143
1. はじめに	/ 145
2. 結果状語と様態状語の相違	/ 148
3. 結果状語と動詞の類型	/ 151
3.1 結果状語を取る動詞	/ 151

目次
Contents

3.2 結果状語と結果補語を取る動詞の相違	/ 152
4. 結果状語と共起する動詞句の類	/ 154
4.1 結果状語と共起する動詞句の形式	/ 154
4.1.1 “V+着”	/ 154
4.1.2 “V+在”	/ 155
4.1.3 “V+名量詞”	/ 156
4.1.4 “V+結果補語”	/ 157
4.2 共起する動詞句から見た結果状語と結果補語 の相違	/ 157
4.3 動詞句との共起から見た日中連用修飾語の 相違	/ 158
5. 結果状語と共起する動詞句の意味特徴	/ 161
5.1 状態性	/ 161
5.1.1 結果状語表現と状態性	/ 161
5.1.2 状態性から見た結果状語表現 と結果補語表現の相違	/ 164
5.2 意図性	/ 169
5.2.1 結果状語表現と意図性	/ 169
5.2.2 意図的制御性	/ 170
5.2.2.1 制御性について	/ 170

目次
Contents

5.2.2.2	結果状語表現の制御性	/ 172
5.2.3	意図性から見た結果状語表現と結果補語 表現の相違	/ 174
5.2.3.1	意志性他動詞の場合	/ 174
5.2.3.2	意志性自動詞の場合	/ 176
5.2.4	意図性から見た日中結果表現の異同	/ 179
5.2.4.1	結果状語表現と結果の副詞表現の異同	/ 179
5.2.4.2	結果補語表現と結果の副詞表現の相違	/ 185
6.	おわりに	/ 187
	注	/ 189

第6章 主観性と結果補語表現—過分義をめぐって— / 193

1.	はじめに	/ 195
2.	先行研究と分析の視点	/ 197
3.	主観性と「過分義」	/ 200
3.1	動詞と補語の意味関係	/ 200
3.2	“了 ₂ ”との共起	/ 203
3.3	形容詞の主観性	/ 208
3.4	補語の非限定性	/ 211
4.	目的語と「過分義」	/ 214

目次 Contents

5. 日本語との違い	/ 217
5.1 非対応性	/ 217
5.2 意図性	/ 220
6. おわりに	/ 222
注	/ 223

第7章 結論 / 225

1. 自動性・他動性と動態・静態	/ 227
2. 日本語との比較対照について	/ 231
3. 今後の課題	/ 233

参考文献	/ 235
------	-------

例文の出典	/ 245
-------	-------

第 1 章

序 論

1.

研究の目的

本研究は現代中国語の結果補語表現を日本語との比較対照を通して、自動性・他動性と動態・静態という意味特徴を中心に、考察するものである。

現代中国語の結果補語は“推倒”“抹紅”“抓住”などのように、動詞・形容詞の後に位置し、動作、行為、作用、変化によって生じた結果を表わすものである(刘月华他 2001)。結果補語表現は極めて複雑であり、意味的・構文的な側面において様々な様相が見られるが、本研究ではとりわけ自動性・他動性と静態・動態という二側面に着目して考察していく。

まず、自動性・他動性であるが、結果補語表現の自動性・他動性という意味特徴について先行研究では次の例のように、述語が自動詞であっても動補構造全体は他動詞的であるとされている。

(1) 孩子哭哑了嗓子。

[子供は泣いて喉を哽らした]

確かにこの表現は主体が対象の状態変化を引き起こしたと捉えら

れ、他動詞的であるように見える。しかし、ここでこの主体の動作は意図的であるのか、対象の状態変化は動作主の直接的な働きかけの結果であるのかどうかといった問題があり、さらに検討する必要がある。本研究では第2章において主語の意味役割を手がかりに、自動性・他動性の定義を明確にしたうえで、この問題を考察していく。

従来、自動性・他動性は一般的に能動・受動の対立にも関連するとされている。結果補語表現では次の例のように能動・受動の対立が成立する場合と成立しない場合がある。

(2) a 小李绊倒了小王。

[李さんは王さんをひっかけて倒した]

→ b 小王被小李绊倒了。

[王さんは李さんにひっかけられて倒れた]

(3) a? 石头绊倒了小王。

→ b 小王被石头绊倒了。

[王さんは石につまずいて倒れた]

例(2)は能動・受動の対立が成立するが、例(3)は受動文は成立するが、能動文は成立しない。例(3)の能動・受動の対立が成立しない理由として先行研究は“被”に導かれる名詞句の意味役割が有責者であるということを挙げている。しかし、本研究では第4章において、“被”に導かれる名詞句の原因・手段化という点に着目して、能動・受動の対立と自動性・他動性の関係の側面から、動補表現の意味特徴の解明を試みる。

また、表現例(4)において、(4a)は成立するのに、(4b)が成立しない

のは“买贵了”が自動詞的な表現であるためとされている。

(4) a 车买贵了。

[車は高く買いすぎた]

→ b* 买贵了车。

中国語では“他死了父亲”のように、自動詞的な表現であっても目的語をとる例は数多く存在する。従って、“买贵了”が自動詞であるから目的語を取らないというのは、例(4b)が非文となる理由にはならない。本研究では第6章において、主観性の側面からこの問題について考察する。

次に、動態・静態という側面であるが、事態を動態と静態の二つのタイプに分けるとすれば、一般に動作性・変化性の事態は前者に属し、結果の状態持続は後者に属すると見ることができる。結果補語表現が陈平(1988: 413)、劉綺紋(2006: 24)が指摘しているように変化性事態を表わすとすれば、それは動態性事態に属することになる。これに対し、結果の状態を描写する表現は静態性事態に属することになる。両者の違いは次の例文に反映されている。

(5) a 院子里深深地挖了个坑。

〈静態〉

[庭には穴が深々と掘ってある]

→ b* 院子里挖深了个坑。

〈動態〉

例(5a)は“院子里”という場所に“坑”というものが“深深地”という状